

【平成17年度専修学校を活用した若者の自立・挑戦支援事業】

事業名	高齢社会に対応できる福祉情報人材スキルシートの開発		
学校法人名	学校法人 中央工学校		
学校名	アクト情報ビジネス専門学校		
代表者	理事長 大森 厚	担当者・連絡先	宝利 竜也 03-3810-1414

<事業の概要>

急速に進行する高齢社会に対応できる人材の育成を目的とした、福祉・情報双方向の人材スキルシートの開発を行う。特に若者の雇用促進への可能性を切り拓くことを目的とし、足立区特区「人材ビジネスを活用した雇用創出特区」事業との連携による研究事業とする。

<成果>

本事業では、福祉等の施設で必要とされる人物を把握し、高齢社会に対応できる福祉情報人材に求められる情報スキルを明らかにした上で教育プログラムを構築した。本来の福祉介護業務・技能と組み合わせることで、専門技術と情報スキルを併せ持った福祉情報人材の育成という、現場のニーズにあった教育目標及び教育カリキュラムの編成を行った。

- イ. 「専修学校」（アクト情報ビジネス専門学校）での取り組み
- ロ. 宮城県での福祉用具製造工場の視察
- ハ. 「福祉用具製造工場」からの報告会実施と研究討議
- ニ. 福祉現場で求められる人物像の報告会実施と研究討議
- ホ. 東京での分科会
- ヘ. 開発したスキルシートの有効性についての検証

(1) 調査研究

回	時数	実施会場	実施内容の概要・実施日	主な対象	受講者数
1	16	アクト情報 ビジネス専門学校 福祉実習室 他	福祉現場実態調査研究・勉強会（5回） ・介護福祉の現場の実態 ・介護福祉業界の動向 ・介護福祉業界の将来性 ・介護福祉施設で求められる人材像 等 2005年7月23日 2005年7月30日 2005年8月6日 2005年8月30日 2005年9月18日	委員 ・ 社会人 ・ 高校生	5名

2	16	アクト情報 ビジネス専門学校 福祉実習室 他	福祉現場実態調査研究・勉強会（5回） ・介護福祉の現場の実態 ・介護福祉業界の動向 ・介護福祉業界の将来性 ・介護福祉施設で求められる人材像 等 2005年10月8日 2005年11月5日 2005年11月12日 2005年11月19日 2005年11月26日	委員 ・ 社会人 ・ 高校生	4名
---	----	------------------------------	---	----------------------------	----

(2) 実証講座

回	時数	実施会場	実施日	主な対象	受講者数
1	114	アクト情報 ビジネス専門学校 福祉実習室 他	第1回（土曜日・日曜日コース）全18回 2005年7月16日（土）～ 2005年12月17日（土）	社会人	9名
2	114	アクト情報 ビジネス専門学校 福祉実習室 他	第2回（火曜日・金曜日コース）全18回 2005年10月4日（火）～ 2005年1月20日（金）	本科生	10名

考察

福祉施設での活動形態は、ボランティアからはじまり、ホームヘルパー・介護福祉士・看護師など様々である。商業実務系の専門学校という立場からすると、介護福祉士・看護師の養成は困難な状況にある。残されたホームヘルパーの修得こそ、福祉施設で活躍する唯一の力になる。また、「働き手が少ない」、「ホームヘルパー2級の有資格者が求められる」という現場の意見からも、ホームヘルパー2級を修得させ、プラスアルファとして、何をどこまで学習させていくのかという点が最大の討議・研究テーマになった。

「福祉情報人材」を掲げる本事業としては、「情報」分野について、どの程度まで教育するのかについて討議が重ねられた。

介護福祉士養成校では、「指定規則カリキュラム」が存在し、2年間で1,650時間が指定されている現状にある。情報教育も欠かせないことから、「情報概論」という科目をとおして、30時間の情報教育を実践するにとどまっており、ワープロソフト・表計算ソフトを学習した程度の内容である。若者の状況としては、「やりがいの感じられる仕事」「人のためになる仕事」として注目を浴びていた時代には、意欲ある若者が、多くの関心をよせていたようであるが、近年は、この介護福祉分野を希望する全体数も減少傾向にある。

福祉を希望する若者すべてに、高度な情報教育が必要なのであろうかが焦点になった。

さまざま視点から検討した結果、情報分野にあっては、次の内容を盛り込むこと

になり、各人のスキルに応じて必要な部分を補う形で講義を実施することで意見を集約することができた。

○ 情報分野

学習分野	学習内容
入門	パソコンの基本操作
文書処理	文書作成ソフトの基本操作
表計算	表計算ソフトの基本操作
セキュリティー	大切なデータ・個人情報を守る
ネットワーク	パソコンの有効利用について

福祉施設の採用担当者は、応募者の履歴書にある福祉関係の資格試験等を2つ・3保有しているのを確認することで、福祉に関心をよせている人材であると評価するようである。

ホームヘルパー2級の修得だけでは、自立することが難しい現状も否めない。そこで、福祉関係の資格試験等を盛り込むことで、この課題を克服するための講義を提案する。

また、採用した人材の定着率が3年程度に留まっている現状もある。これには、さまざまな要因があるようであるが、その多くは、人間関係にあるといわれている。サービス利用者であるお年寄りとの人間関係よりも、そこで働く者同士の人間関係が原因になることが多い。

○ 福祉関連科目

学習分野	学習内容
ホームヘルパー2級	ホームヘルパー2級養成講座
介護事務管理士	介護事務管理士養成講座
福祉住環境入門	福祉住環境コーディネーター3級
福祉住環境応用	福祉住環境コーディネーター2級
介護施設実習	まとめ

足立区の教育相談センターでは、チャレンジ学級を開設し、自立・支援へ向けた取り組みが実施されている。ここでは、不登校の状態が継続している児童・生徒が、欠席により遅滞してしまった基礎学力補充や社会性を育成し集団への適応力を高め、学校復帰を支援することを目的としている。

これらのことを踏まえ、本事業では、「コミュニケーション能力」の開発も手がけることになった。

○ コミュニケーション能力

学習分野	学習内容
入門	自己紹介をするには
コミュニケーション1	あいさつについて
ことば遣いと敬語	ことば遣いと敬語について
効果的な話し方	話す内容の構成について
プレゼンテーション	まとめ

